

大学生の Twitter 使用における社会的比較と友人関係満足度との関係

The Relationship between Twitter Usage, Social Comparison and Satisfaction of Friendship among Undergraduate Students

学籍番号：201621628

氏名：中田 周育

Nakada Shusuke

Festinger(1954)により提唱された、社会的比較とは、「自分と他者とを比較することの総称」と定義され、人間は自分の意見や能力を評価しようとする性質をもっており、他者と自分を比較する。高田(1999)によると、とくに青年期ではアイデンティティの確立が不完全なため、類似した他者との社会的比較を活発に行うと報告されている。近年では Facebook をはじめとする SNS (Social Networking System の略)においても社会的比較の影響に関する検討がなされてきた。社会的比較には自分より優れた他者との比較(上方比較)と劣った他者との比較(下方比較)がある。Facebook では自分をよく見せるポジティブな情報が多く投稿されることから、上方比較が行われ、その結果自尊心が低下したりするなど、メンタルヘルスに悪影響があると報告された(Jang, 2016)。日本では若年層が Twitter を多く利用して、Twitter では知合いのみならず、見知らぬ他者とも繋がっているため、「類似した他者」の範囲が広がると考えられる。河井(2014)は SNS 上の社会的比較によって、学校生活への適応に重要な友人関係満足度に負の影響を与えることを示した。

以上を踏まえて、本研究では大学生の Twitter 使用とそれにおける社会的比較の実態、及び友人関係との関係を究明することを目的とし、今後大学生の学校生活への適応や円滑な対人関係の維持、それにおける SNS 使用の影響に関する検討に貢献できると考えられる。

そのため大学生を対象に 2017 年 7～8 月に質問紙調査を実施し、最終的に Twitter アカウントを所持した 177 名を分析対象とした。Twitter の使用、社会的比較、友人関係満足度、これらの因果関係を明らかにするため、共分散構造分析を行い、その結果以下のことを明らかにした。Twitter の使用自体が友人関係満足度への影響は見られなかったが、Twitter を使用すればするほど多くの社会的比較を行い、その結果友人関係満足度が低下した。また、意見比較より能力比較、そして上方比較より下方比較の方が友人関係満足度に与える影響が大きかった。本研究の結果から、Twitter 上での社会的比較は友人関係満足度を悪化させることから、大学生が円滑な対人関係を維持するには Twitter を利用する際、むやみに他人と社会的比較をしないことが重要だと示唆された。

研究指導教員：歳森 敦

副研究指導教員：叶 少瑜